

崔姓	一〇戸	張姓	一戸
梁姓	四戸	趙姓	一戸
王姓	四戸	馬姓	一戸
葛姓	二戸	沈姓	一戸
關姓	二戸	計	四四戸

即ち高、崔兩姓最多大道三家子の名の示す如く高、崔は其の三家子中の二家子なり。其の他梁、王も他姓に比し稍多く三家子中の他の一家子は梁、王と説す所區區にして孟姓説亦相當有力なり。

高の一七戸、崔の一〇戸皆夫々血縁關係を有せり。

六、經濟的に見たる調査部落の特殊相

(一) 地主は存在せず

既述の如く當屯には地主一戸も存在せず。土地を所有するものは皆自家にて之を經營し貸付地全然なし(44)が(12)の〇・五响(28)の〇・五响の如き零細土地を借入し(25)の一响を轉借せるを見る。

斯くて小作地は四六・〇响にして自作地四七九・四响の十分の一にも達せず。(25)は屯民共有の牧養地四・〇响を借入其の中の一响を(44)に轉租せり(35)の小作地八・〇响は屯内に所在し、二人にて共同小作を行へり。其の土地所有者は屯外居住者なり。(27)は屯外のもの屯外の一三・〇响を共同小作せり。

(二) 典は皆無なり

當屯に於ける土地關係は極めて簡單にして押地の關係は中央銀行の春耕貸款を借入しおる關係上多數の實例を見受けられるも典地の關係は皆無にして典と云ふ言葉も村民には解せられざるが如し。

(三) 自給經濟に非らず

滿洲の農家經濟は一般に自給經濟の範疇を逸脱せずとの説あるも、當調査部落は其の趣を全然異にし、交換經濟決定的に當調査部落の經濟

的諸事象を支配しをれり。一般生活狀態の側面にて後報すべきも、生活資料の獲得は自給に依るものなきにあらざるものは、至つて微々たるものなるを發見し得べし。

(四) 災害は當調査部落の生産經濟には支配的力を有す

部落の構成狀態表にも廢耕地として掲載せる如く、二三九・五响の莫大なる數字は注意を惹くに充分にして、廢耕地と耕地とを合算し耕地總面積とすれば、本屯のそれは七一八・九响にして其の中、二三九・五响が大同元年以降水害、雨害等頻りに續起する災害に依り、三年末耕種不可能と成れるものなり。其の耕地總面積に對する割合は實に三三・三%を示せり。一响當小麥の收量は一・五石にして四年前は七一八・九响に對し一、〇七八・四石收穫可能なりし所、三年末一年間に付三五九・三石減收せり。表中の廢耕地は勿論一時的なる耕種不能にして爾後天災に見舞はれることなく再び耕種可能となるも、地勢低濕にして適當なる處置方策を講ぜざる限り恢復すること尠東なし。斯くて災害は當部落の生産經濟には支配的力を有すと云はざるを得ず。

(五) 主要農作物と主食物との關係

當屯に於ける主要農作物は小麥にして、播種面積の八三・四%を占む、其の他大豆、穀子、糜子等は何れも自家食用に供する爲、極少量に作付せられるものにて、販賣の域に達せず。

主食物は別報の如く糜子、高粱、包米等にして、何れも購入に依るものなり。既述の如く當屯にては交換經濟決定的に經濟的諸事象を支配しをれるは之に依りても明白なるべし。

二、生 業

統計處 徐 長 吉

目 次

1 農 業	
(1) 農業生産手段	(2) 役畜並用畜
(2) 耕種概要	(3) 牧 野
(3) 經 營	(4) 獣疫の流行に依つて大なる災害を受けた例
(4) 農産物販賣事情	3 林 業
(5) 農産物之運搬	(1) 造林地
2 畜 産	(2) 自然林
(1) 役畜の更新	(3) 林野産物
	(4) 農業以外の生業
	附 小作慣行

農 業

1 農業生産手段

(1) 地價 當屯の土地には、農民の云ふ所に依れば、黒土地と沙土地（二六子地）の別あるのみ、古い時代の事情は農民には何等記憶がなく且又賣買も稀に行はれ土地に對する評價も亦見積り得ないやうな有様である。纔に事變直前より去年迄、略其の趨勢を窺知することが出来る丈である。表示すれば次の如し。

一 响 當 坪 價		備 考	
種 別	年 別	民國二〇年	大同二年
黒 土 地		一〇五・〇〇 元	四二・〇〇 元
沙 土 地		七〇・〇〇 元	二八・〇〇 元
			三〇・〇〇 元
			二〇・〇〇 元

大同二年は水害り因に評價するを得

右表の如く當屯に於ける地價は事變直前に比して倍以下下落し、爾來水害雨害の爲、下落の一路を辿りつゝあるのである。

最近行はれたる賣買の實例

買主	賣主	中人	保人
姓 名	王 淳 瑞	崔 恩 明	馬 海 壯
住 所	本 屯	五 福 碼	齊 々 哈 爾
			五 福 碼

去年（康德元年）一月より賣主の申込に依り、六响の土地に對し江洋二、〇〇〇圓の賣價で賣拂ふやうに、馬海壯に頼んだ。買主は江洋二五〇圓なら買ふ意志を持つて居ると馬に云つた。賣主は一回毎に八〇—一〇〇圓位値下げ、買主も交渉毎に一一五元位値上げをした。斯くの如くにして、三ヶ月間位遷延した揚句、賣主五〇〇圓迄は値下げ、買主は三〇〇圓迄値上げをした其處で中見人は「割兩斷」して、四〇〇圓で賣買が成立した。地照は未だ分割されず買主に交附し得ないから、買主は米額を交附し、土地使用收益の權を獲得し、地税を負擔し、地照交附後、全額を交附すべく、買主、賣主、中見人、中保人、代筆人立會ひの下に次の如く契約した。

（王淳瑞の口述に依る）

立賣地文約人崔恩明手中不便因今將坐落一區一署東官鄉五福碼界內原領熟地六响賣與大道三家子王淳瑞名下託衆人說允地價四百圓筆下交付二百元未附二百元俟地照交還後如數償清並更換新契以便順契恐口無憑立此存證

賣 主 崔 恩 明
買 主 王 淳 瑞
中 見 人 馬 海 壯

康德元年三月廿日

(2) 役畜の種類、價格、騰落

種類別價格を記せば次の如し。

(二八) (一六) (三三) の三世帯に就て調査せるもの

調査番號	種別	時期	牛			馬			騾			驢		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
(二八)	馬	一月一〇月	七〇元	五〇元	四〇元	六〇元	五〇元	三〇元	六〇元	五〇元	二〇元	二〇元	一五元	一〇元
(二六)		二月一二月	六〇	四五	三〇	五〇	四〇	三〇	六〇	五〇	三〇	二〇	一五	一〇
(二三)		三月一三月	六〇	四〇	二〇	五〇	三〇	二〇	六〇	三〇	二〇	二〇	一五	一〇
尙齊々哈爾に於て調査せる康德元年馬、牛の一頭價格並に康德元年一年間に於ける價格の變動は次の如くである。														
調査日(四月九日)	種別	時期	牛			馬			騾			驢		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
二月	牛	一月一二月	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元
三月		二月一二月	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元
四月		三月一三月	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元	八〇元	七〇元	六〇元

中保人
代筆人

五三八

崔王
成迎
貴才

役畜の價格の騰落の概略は次の如し。

種別	等別	三〇年前			二〇年前			一〇年前			建國直前			大同元一二年		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
牛	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
馬	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
騾	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇
	下中上	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇	一〇〇〇	八〇〇	六〇〇

備考

2 耕種概要

(1) 主要作物名—主要作物名は次表の示す如く、小麦が最も主要にして、播種面積の八三・四%占め、販賣用に供する。其の他、大豆、穀子、蔬菜は何れも自給自足の範疇を脱しない。高粱の栽培は全然無く、鐵道沿線であるから、禁止せられてゐることは言ふ迄もないが、昔から栽種して居ないやうである。

播種面積 (單位响)		康德元年		其他	
調査番號	面積	調査番號	面積	調査番號	面積
一〇	九	一〇	九	一〇	九
七	六	七	六	七	六
六	四	六	四	六	四
四	二	四	二	四	二
二	一	二	一	二	一
一	〇	一	〇	一	〇
小麥	一〇〇	大豆	一〇〇	穀子	一〇〇
大豆	一〇〇	穀子	一〇〇	蔬菜	一〇〇
穀子	一〇〇	蔬菜	一〇〇	其他	一〇〇
蔬菜	一〇〇	其他	一〇〇	計	一〇〇
其他	一〇〇	計	一〇〇		
計	一〇〇				

(2) 主要作物の作業別所要勞力(三〇)王淦瑞(二八)崔秀峰に就ての訊問調査)

A
小
麥

肥料運搬 人夫一人で牛車二台、一台に役牛一頭――五里離れてゐる所は八回運搬で一六台、五―六里離れてゐる所では四回運搬で八

[illegible]

台平均一二台運搬とし、一响の施肥分は五〇台である。三―四年置きに一回。

人夫一人で一晌分施肥出来る。

墾地（撈地）人夫一人が拍子（役牛四頭）一台で三・五晌の功程である。耕地は二回行ひ、第二回の功程も同じ。

播種 人夫一人で四晌分「撒種」。種は人夫一人犁丈一台(役牛二頭)で一晌の功程。

鎮壓 人夫一人木頭輓子二台(役馬二頭)で功程五晌

中耕培土人夫一人犁丈一台(役牛二頭)で功程一晌

草抜き（拔草）草の多い時は五人で功程一晌、草の少い時は二―二人で功程一晌。

收穫 人夫五人を一列（一躰子）とし、捆個子一人を入れて六人で二晌の功程。

運搬（拉地）人夫一人で牛車二台（役牛二頭）を受持ち一―二里離れてゐる所は二晌分、五―六里離れてゐる所は一晌二―三畝分の功性
とす。平均一晌七畝分とす一車分三〇捆、一〇〇捆に一石。

前作物株處理（翻秋楂）二回行ふ。第一回済んでから一ヶ月間位置いて撈地一回行ふ。

第一回は人夫一人に犁丈一台（役牛四頭）で〇五晌とす。第二回は同勞力を以て〇四晌とす。耨地は人夫一人に拍子（役牛四頭）で二晌とす。

第二回は晝短寒冷にして功程以て少なり。

人夫一人は石頭碁子二台(役馬二頭)

陰曆九月二〇〇掘(二石)備考土地濕潤麥濕

一〇月五〇〇捆(五石) 地表凍結開始麥稍凍

二月八〇〇〇(石) 地表凍結小麥凍

販賣 人夫一人で牛車二台(役牛二頭) 一台裝載量一・二石―一・五石

B.
大
豆

施肥 整地の功程は小麦に同じ

播種 人夫二人（點種的一人、扶犁的一人）に犁丈一台（役牛四頭）一晌

勞力

計	販	脛	夏	夏	運	收	草	中	鎮	播	整	施	肥
	穀	耕	耕										料
	調	(第二回)	(第二回)										運
	賣	製	搬	搬	拔	耕	壓	種	地	肥	搬		
二〇・六三	〇・五〇	〇・五〇	二・五〇	二・〇〇	〇・五八	三・〇〇	三・五〇	一・〇〇	〇・二〇	一・二五	〇・四〇	一・〇〇	四・二〇人
	牛	牛	牛	牛	牛		牛	馬	牛	牛		牛	
三四・五八	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	八・〇〇	一・一六		二・〇〇	〇・四〇	二・〇〇	〇・六二		八・四〇頭	

扶犁的一人、撒種〇・二五人

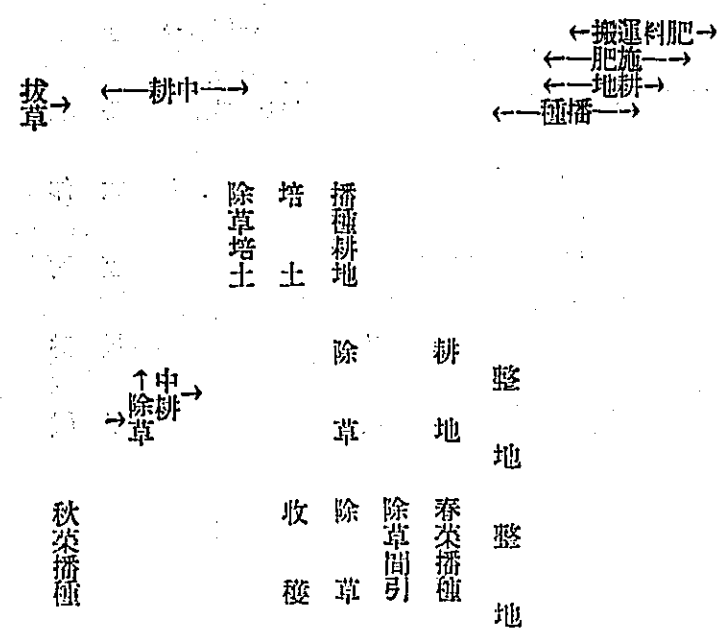
月

七月			六月			五月			四月			三月			二月			一月		
下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上
大暑	小暑	三伏	夏至	芒種	小滿	立夏	穀雨	清明	春分	驚蟄	立春	雨水	立春	大寒	小寒	三九	二九	一九	臘月	小寒

氣象

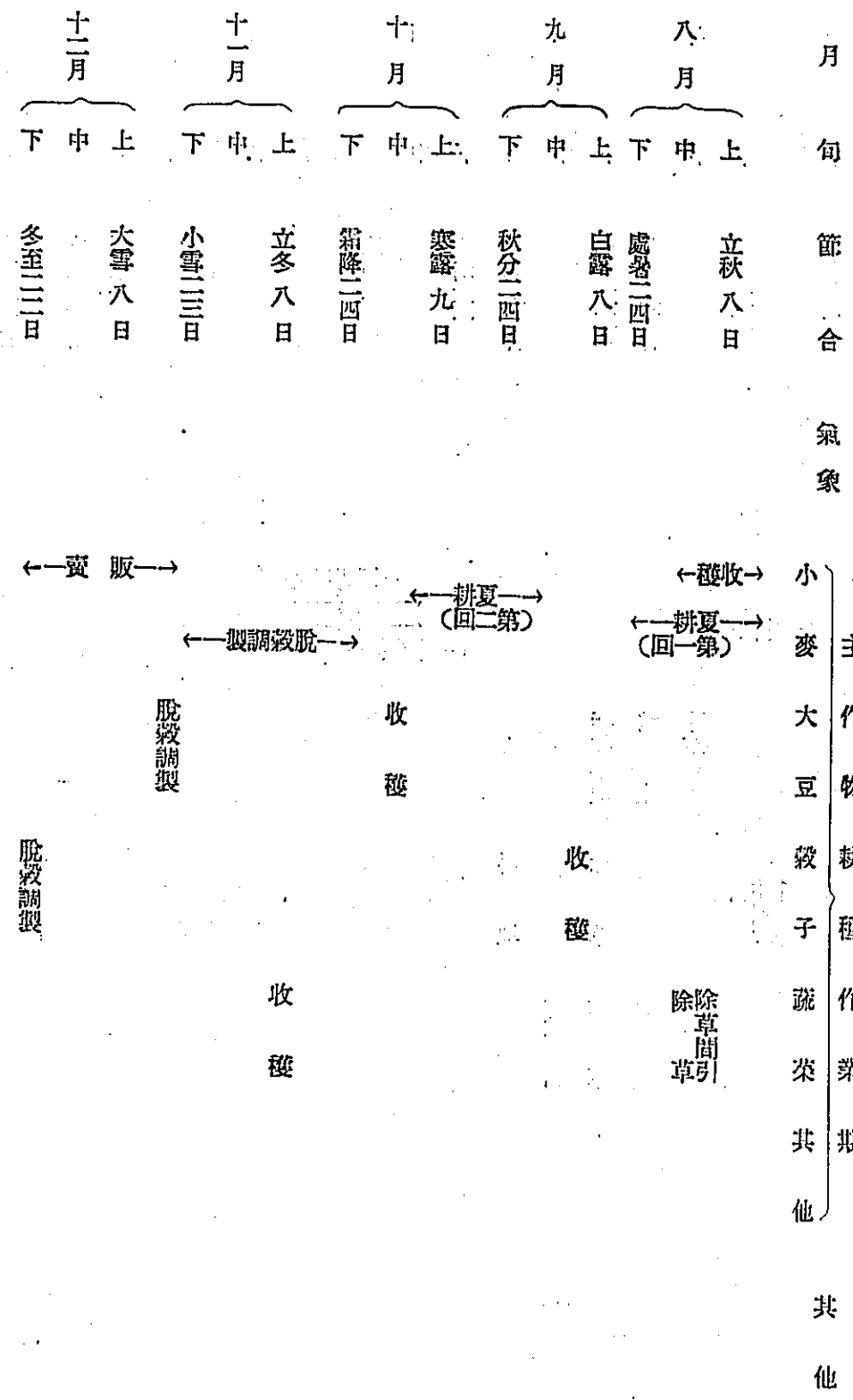
小麥	主作物耕種作業期
大豆	
穀子	
蔬菜	
其他	

其他

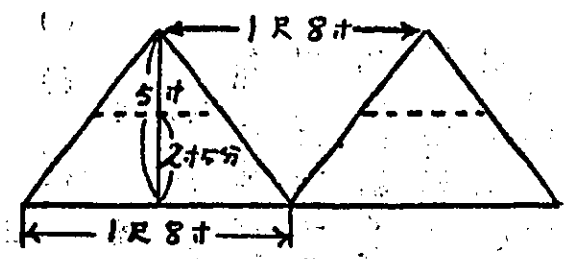


← 舊正月 へ 草子 へ →
 ← 休み へ 草子 へ →

← — 牆住 修宅 繕土 — →



(3) 耕種方法 畦作が根本的特徴である。次に圖示せる如く塋底は一尺八寸にして塋尖より鄰の塋尖に至る距離も亦一尺八寸であつて、轆子で鎮壓した後の距離は五寸である。高さは五寸で鎮壓後二寸五分となる。



肥料は土糞を使用し、三―五年に一回施肥し、一畝當りの施肥量は三〇―五〇斗車が必要とされる、土糞は一般に使用されるもので、富裕なる農家は黄糞を使用するのである。
次に土糞の製造方法を略述しやう。

- A 土糞の材料
- 厩肥 一〇〇貫
 - 土 一〇貫
 - 小麥糠 二〇貫

土は普通の畑の土を用ふ、主として砂質増土(砂六粘土四程度のもの)のものを採り用ふ。この土は厩舎に約三寸の厚さに敷かれて糞尿を吸収すると共に厩内を乾燥させ、兼ねて土糞の容量を増す爲に役立つ。小麥糠は新鮮なるものを用ひ冬期寒冷なる時期にのみ厩舎内の主として糞尿の爲陰濕となり易きあたりへ約三寸の厚さにて撒布される。

B 製造法

一年間を通じ滿洲の農家は厩舎に土を入れ約三寸の厚さに敷きて家畜の糞尿を土に十分吸収せしむる、夏季に於ては土のみであるが冬季には土以外に尙小麥糠をも比較的糞尿の溜りやすき所に撒布して糞尿の吸収と厩内の乾燥に努める。此等家畜の糞尿、飼料粕、土糠等の混合物は約十日―十五日間に取り出し新しき土及び糠が入れ換へられる。かくして厩舎より取出されたる糞土は一月下旬から二月上旬頃迄約五個月間家の附近の廣場に堆積されて切返しが行はれる。切返しは普通一回行はれ第二回目の切返しは第一回終了後約二週間後に行はれる。

C 製造高

- 馬、牛、騾、豚等に依り差あり
- 馬、牛に於て一年三〇車
- 騾、驢に於て一年一〇車
- 豚に於て一年一車
- 備考、鶏糞は使用せず

當屯に於ける主要作物は小麥、大豆、穀子の三種にして康徳元年に於ける其の畝當收量は次の如くである。

小麥 一・五石 大豆 一・七石 穀子 一・〇石
尙詳細は次表十戸に就て調査せる結果を参照せよ。

(4) 耕種梗概	小			大			豆			穀			子		
	播種面積	收量	响當收量	播種面積	收量	响當收量	播種面積	收量	响當收量	播種面積	收量	响當收量	播種面積	收量	响當收量
計	二五・八〇	三七・八〇	一・五	二〇・〇	三三・八	一・七	一一・〇	一〇・六	一・〇	一一・〇	一〇・六	一・〇	一一・〇	一〇・六	一・〇
一	三〇	七二・〇	一・五	五〇	一〇・〇	二・〇	二〇	一・八	〇・九	二〇	一・八	〇・九	二〇	一・八	〇・九
二	二八	五五・〇	一・八	五〇	一〇・八	二・二	二〇	一・八	〇・九	二〇	一・八	〇・九	二〇	一・八	〇・九
三	二四	一六・〇	一・五	二〇	三〇	一・五	二〇	二・〇	一・〇	二〇	二・〇	一・〇	二〇	二・〇	一・〇
四	二〇	八・〇	一・五	一〇	一〇	一・一	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
五	一九	六〇・〇	一・二	五・五	五・五	一・一	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
六	九	一七・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
七	一七	一九・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
八	一六	一七・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
九	一五	一七・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十	一四	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十一	一三	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十二	一二	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十三	一一	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十四	一〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十五	九	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十六	八	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十七	七	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十八	六	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
十九	五	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十	四	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十一	三	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十二	二	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十三	一	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十四	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十五	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十六	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十七	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十八	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
二十九	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇
三十	〇	一六・〇	一・五	一〇	一〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇	一〇	一・〇	一・〇

前作物 大豆、穀子、穀子の跡に栽培し、永久に連作しても差支へない。

施肥 (二四) 高瑞慶は二十响を経営し、一年毎に五响施肥し四年に一回施肥することとなる。肥料の畑搬出時期は陰曆の十月か春先である。搬出方法は堆積せる糞堆を崩して牛車に積込み之を畑へ搬出するのである。小経営の農家は挑子で擔ぐ場合もある、畑搬出後一車糞を四堆に分け、基盤の如く分置し、一响につき七〇—八〇車位施肥する。堆と堆との間隔は牛車一台分である施肥は粗放的な撒糞である。

整地 俗に「撈拍子」と稱し、陰曆二月末より清明にかけて地平しをする。拍子を牛四匹に曳かせて趕拍子の一人が之を監督する。

一拍子は四塊を撈し往復八塊を撈すことが出来る。

播種、鎮壓 播種は翻種で翻種後直ちに鎮壓する。即ち舊壟台を壟溝にし舊壟溝を壟台にし作付面積の完全なる半分を休息せしめる耕作方法である。

法である。撈拍子後播種し、撮子に種子を入れ頸に掛け手で播き之を「撒種」と稱し、一把に七乃至八塊播くことが出来る。畦踏はやらない。播種後、土壌の乾濕の具合を見て翻地を行ひ犁文を牛四匹に曳かせ扶犁の一人を付けて翻地し一回往復して一壟になる。翻地後壓地を行ひ、木頭轆子を牛一匹にて曳かせ轆子の一人を付けて一壟に二壟、往復で四壟鎮壓出来る。播種量は一响に付上地は七匣子、中地は六匣子、下地は五匣子半であつて撒種に依り餘計種子を使ふことになる。

註 (匣子)とは半斗であつて南滿地方の一斗に當る(斗=13.21kg)種子は番麥(秃尾巴)とも稱し、麥芒が出ないから云ふ)なる品種を栽培して居る。

中耕、除草 夏至前一週間、苗が一尺位伸びた時に行ひ、犁文を牛二匹に曳かせて扶犁の一人を付ける。之を盪地と云ふ。盪地後直ちに除草(拔草)をする。除草は草の少い時は一人に二壟、多い時は一壟を受持つ。取つた草は其の儘壟溝に捨て置く。

收穫 小麥の收穫は播種後百二〇日目に於ては俗に「麥子不受二伏氣」といふ言葉がある如く、大暑後一—二日に刈取る。割麥子の五人と割個子の一人と六人が一列となり、割麥子の一人が一壟を受持つて刈取るのである。割麥子の刈取つた麥を一把毎(一把七〇—八〇本)に壟台に横たへて置く、五人の割麥子的に一人の割個子的が附随して居るから、其の割個子的が其れを直徑二尺程の捆に括つて十歩毎に十捆を一括りにして立たせる。十捆の中八捆は穂を上にして立たせ、一捆は下に敷き、之を「枕頭格子」と云ひ。一捆は上に被せ、之を「押頂格子」と云ふ。一捆りを「一碼」と云ふ。此の功程後五六日間経つてから場園まで運搬する。運搬は牛車を使い、一車に三十捆を積込むことが出来る。三百捆を圓く積み重ね穂を中に向ける。上の方に麥楷を被せる。堆垛は二人で一人は堆垛的一人は撈格子的である。捆になつた小麥を其の儘打場まで四ヶ月位置くのである。

翻秋橙 翻秋橙は二回行ふ、第一回は收穫後直ちに行ひ、麥の根を掘出さず壟台を壟溝にし、麥の根を腐蝕させる。春耕の翻種と同じく犁文を牛四匹に曳かせて扶犁の一人を付けて翻地を行ふ。翻秋橙一ヶ月後撈拍子一回行ふ。第二回は除暑の時に於て、前回返したものを又返すのである。當地は地味硬く、翻地を二回繰返さなければならぬのである。

脱穀、調製 冬至から開始する。小麥を場園の中央に圓く敷き、中を空け、一廻り二十捆を敷く。敷いてから石頭礮子を馬に曳かせて率礮子的一人を付けて脱穀する。脱穀済みのものは中の空地に掻き集め、捆楷的が麥稈を捆に括つてから、又小麥を敷いて同じ功程が繰返へされ

る。約十石分位掻き集めた後、始めて木楯で風選する。麥糠が落され、燃料の用に供する。

B 大豆

前作物 普通小麥、穀子、糜子の跡地に植付ける。當地では「能種重植、不種迎植」と云ふ俗語がある如く、二年連作することは差支へないが、隔年に植付けることは絶對禁物である。

施肥 小麥と同じ。

整地 小溝前一週間より始め作業方法は小麥と同じ。

播種、鎮壓 「小溝前後、按瓜種豆。」とあるが如く、小麥より四十日位遅く陰曆四月十日頃に播種す。播種は點種で點胡椒なる播種器を用ひ、壟溝に點種し撒種は稀である。跡格子は管餘剩勢力のある場合にのみする。壓地は土壤の乾くを待ち、普通播種後直後の日に鎮壓する。之に要する工夫、家畜は小麥と變りない。播種量は一响に二匣子（二三二一匣）が普通である。

除草 中耕 畛地は二回行ふ。第一回は植付け後十日目に行ひ、第二回は初伏以前、陰曆五月二十日頃、割地した後に行ふ。第一回は折四鍬子犁剗子を用ひ之を「扣」と云ひ、第二回は折三鍬子（七斤）を使用す。割地を又「開小苗」と云ひ、鋤頭を使用す。畛地は犁丈を使用す。

收穫 白露以後秋分以前小麥と同じく五人を一畝子（一列）とし、一人が一壟を受持ち、往復で十壟、十壟の中央に刈取つた大豆を十歩毎に堆積する。勞力不足の場合は堆の儘二三日間放置することが出来る。捆個子等は凡て小麥と同じ。

脱穀 調製 作業方法、別に小麥と變りない。

C 穀子

土壤の低濕なる所に適せず。整地の作業方法、小麥と變らない。整地の時期は播種前に行ふ。

播種 鎮壓培土 小麥より二十日間位遅れて陰曆三月二十日（立夏）頃に開始する。土壤乾濕の具合を見て、濕潤なる時は潄種し鍬子で壟溝を潄し培土し、乾燥せる時は壟台を割開するのである。播種は「藪穀子」とあるが如く、割開された新壟溝に點種す。犁丈の行きは種子を點胡椒で點種し、犁丈の歸りは隣の壟台を反すと同時に犁丈に草把子を付けて播種したる壟溝に土を被せる。鎮壓は土壤の濕潤なる時は必要とせず乾燥せる時は牛車に趕車的一人を附隨して車輪で鎮壓する。播種量は一响一匣子（五升）が普通である。

除草 中耕 割地は二回行ひ、畛地は第二回割地の直後に畛地一回を行ふ。第一回割地は苗が一寸位伸びた時に行ひ、第二回は六寸位伸びた時（陰曆五月二十日頃）に行ふ。割地は壟台を幾分平坦にし畛地の時に培土し、之を「拉壟」と云ふ。

收穫 大穀子ならば播種後百二〇日目に、小穀子は六十日目に收穫出来る。作業方法は小麥と同じ。

脱穀、調製 小麥に準じて行ふ。

D 糜子

糜子は小麥と同じく撒種で作業方法は全然變らない播種量は一响二匣子で、種子は飯糜子と粘糜子の別がある。飯糜子は精製して糜子米（又稱稷子米）に成り、粘糜子は精製して黄米になる。

糜子の苗が六寸位伸びた時に畛地一回のみを行ふ。一尺位伸びた時に草抜きを一回行ふ。（白露）

糜子は植付け後七十日目に成熟す。

收穫、脱穀、調製は小麥に準じて行ふ。

小麥植付け後、發芽しない場合は畑を返し、豆類を植ゑ、豆類が發芽しない場合又畑を返し蕎麥を植ゑる。

作物名	整地播種期	施肥量	播種法	一响の播種量	移植期	畦間株間	中耕除草	收穫期	作付面積	收穫量	備考
白 菜	七月下旬	一車五〇〇响	直播	一〇斤	なし	一・八尺 一・五尺	三回	十月上旬	一〇〇响	二〇〇〇斤	種子は白菜種を輸入するの外凡て自家生産のものを使用する。
蘿 蔔	七月中旬	なし	苗床	一・五斤	七月	一〇尺	二回	十月下旬	四〇响	〃	移植した後施肥せず。
茄 子	七月上旬	〃	苗床	一・五斤	前後	〃	〃	八月下旬	二・八响	七〇〇〇斤	〃
胡 瓜	五月中旬	〃	直播	二〇斤	なし	三・六尺 二〇尺	〃	七月下旬	三〇响	六〇〇〇斤	〃
馬鈴薯	五月上旬	〃	直播	八〇〇〇斤	〃	一・八尺 一〇尺	〃	〃	五〇响	二二〇〇〇斤	〃
芸 豆	五月中旬	一車五〇〇响	直播	一・五斤	〃	一・八尺 〇・五尺	二回	七月下旬	三〇响	九〇〇斤	葱、蒜、韭菜、西瓜、
辣 椒	七月上旬	〃	苗床	一・五斤	七月	一〇〃	〃	八月下旬	〇・五响	二二〇〇〇	落花生等の栽培な

南 瓜	五月中旬	苗床	四〇斤	五月下旬	七・二尺	五・〇	十月上旬	〇・五响	一・四〇〇
辛 瓜	五月中旬	直播	四・〇斤	五月下旬	〇・五响	〇・五响	四・二〇〇		

3、經營

- (1) 普通一戸當り經營面積三〇—四〇响(王勃瑞に就て訊問)二〇—三〇响(高瑞慶に就て訊問)
- (2) 自作、小作に夫々必要なる經營面積一八人の世帯で勞働に従事するもの二人
 - イ 自作の場合 一〇响
 - ロ 小作の場合 一五响
- (3) 作物の組合せと輪作との關係
 - 小麥の跡地は大豆、大豆の跡地に穀子、穀子の跡地に小麥を作付するを最も適宜とす、當屯では小麥の作付面積最廣にして、必ずしも右の如く作付を一年毎に變更して輪作せずに(29) 崔(30) 王は三—五年間で全部の小麥栽培面積を輪作し終ると云つてゐる。
 - 穀子を耕種するには除草中耕一回必要とし、大豆を耕種するには除草中耕を一回必要とす。勞力過多に必要な關係上栽培面積以て狭少である。
- (4) 作物の變遷、品種改良
 - 當地は日工の賃銀南滿地方に比し高く、日に賄付七角を要し、大豆、高粱、包米の會て大規模に栽培せざりしは除草に多大の勞力を要し日工賃銀が高價であるからと云つてゐる。
 - 小麥の品種改良に就て述べんに
 - A 火麥 五〇年前より栽培したるものであつて麥芒子を有し穗が小さく、且黄丹、黑丹なる徴が生じ易い。黄丹は(29)の話に依れば麥粒が大きく中味は腐敗す。黑丹は表皮も中味も共に黒くなつて腐敗す。
 - B 洋麥 三〇年前より栽培と云つてゐる。

麥芒を有し、麥穗が小さい。一响に三斗の播種量で收穫量は一・一—二石である。

〇 蛋麥 又「秃尾巴」と稱し麥芒なし、東荒(克山一帶)より來たと云ふ約二十五—六年前。豐收の時は一响三・五斗の播種量に對し二石の收穫が得らると云ふ。

本屯で栽培してゐる小麥の品種は全部此にして昨年は一响當收穫量は一・四—一・五斗であつた。

1、農産物販賣事情

當屯は齊々哈爾に毗近し、日歸りし得るから齊々哈爾粮店を利用する事稀にして販賣時期には集市を爲し粮棧の外櫃が集市に行つて買ふことを通常とす。其の價格、往々當日の相場より幾分か低下す。

粮市、柴市孰れも何等組織なし。

穀物別價格の月旬別變動(一石) (龍江南務會料單に依る)

種別	月旬別	大豆	高粱	包米	小麥	大麥	穀子	稷子	糜子	蕎麥	燕麥	小豆	青豆	芸豆	芝麻
一 月	上	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	中	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	下	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
二 月	上	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	中	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	下	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
三 月	上	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	中	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	下	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
四 月	上	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	中	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇
	下	九・六〇	八・六〇	八・六〇	二・六〇	九・六〇	七・六〇	二・六〇	三・六〇	七・六〇	一・〇〇	一・七〇	二・六〇	一・六〇	二・六〇

備考	五月			六月			七月			八月			九月			十月			十一月			十二月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1月より五月迄江洋の價格にして國幣	13.00	12.00	11.00	12.00	11.00	10.00	13.00	12.00	11.00	12.00	11.00	10.00	13.00	12.00	11.00	12.00	11.00	10.00	13.00	12.00	11.00	12.00	11.00	10.00
六月以降は國幣建	14.00	13.00	12.00	13.00	12.00	11.00	14.00	13.00	12.00	13.00	12.00	11.00	14.00	13.00	12.00	13.00	12.00	11.00	14.00	13.00	12.00	13.00	12.00	11.00
〇・七〇元江洋一・〇〇〇換算とある。	15.00	14.00	13.00	14.00	13.00	12.00	15.00	14.00	13.00	14.00	13.00	12.00	15.00	14.00	13.00	14.00	13.00	12.00	15.00	14.00	13.00	14.00	13.00	12.00

イ 運搬用具 牛車 一台裝載量一・五石

5、農産物の運搬

道路里程、道路は齊々吟爾まで村の北方より北へと延長してゐる。冬季穀物運搬期は地表凍結し、運搬は至つて樂である。趕車の一人が二台の牛車を受持つことが出来る。里程は二十五滿里と云はれて居る。

畜産

1、役畜の更新

A 繁殖に依る役畜更新年限 牛は四歳にして仔牛を産み、五歳まで成長する時に始めて使役することが出来る。

馬は牛と同じく、四歳に仔馬を産み、四歳まで成長する時に始めて使役し得る。

驢馬は四歳産仔、四歳まで成長する時に使役する。

B 役畜の使役年限

牛 五歳—一〇歳 五年間
馬 四歳—一四歳 十年間
驢 四歳—一四歳 十年間
當地では大驢(陝西驢)なし。驢馬の使役者が少い。大驢は價格高貴にして光緒末年頃江洋四—五〇〇・〇〇元を要したと云。

2、役畜並用畜

(1) 家畜の飼養管理 家畜の飼養管理狀況(24) 高瑞慶について調査せるもの

(牛)

- 名稱
- 牡—芒牛
- 牝—乳牛
- 去勢—尖牛
- 仔—牛仔子

當屯では牛の役畜に於ける地位は最も重要にして、耕作拉車、拉脚等の役用に供し、乳用はない。

飼料は洋草を給し、朝夕二回、陰曆十月より翌年四月迄七ヶ月間、其の中、三月、四月の二ヶ月間は洋草丈で一日成牛一頭十五斤、仔牛一頭八斤、残りの五ヶ月間は洋草の外、濃厚飼料（黑豆）を給するから洋草の量を成牛は四斤、仔牛は三斤減少する。

十月からは醋寒に入り、同時農産物販賣時期であるから穀物運搬の爲に使役は過激に成るを以て濃厚飼料を給しなければならぬのである。濃厚飼料は粗飼料給與の後に水を飲ましてから給し、洋草と攪拌しない。黑豆は生のものをやらず蒸してから食はせる。

四月二十日頃から九月十五日頃まで共有牧養地で放牧し、之を「放青」と云ふ。

役牛の使役は激甚なもので年中休息の時間がないと言つても過言でない。雷、穀物の生育期に午前中使役し午後休ませること十日間位あるのみ。

繁殖状況を述べんに、當屯は牝牛少にして、牡牛は一匹もなし。事變前には王、崔、高三家に牡牛一頭宛を持つて居たが、飼料が高いため大同元年に全部賣拂つたと。屯東雅門屯梁姓の家に牡牛一匹を有し、（24）高は自分の牝牛を其處へ連れて交尾せしめた。之を「代牛仔」と云ひ、其處の牛官に酒錢二角やつた。牛は受胎して十ヶ月間にして出産する。出産後、硬蹄の上の軟蹄を取り除く。

牛の装蹄は蹄形の歪んだ場合にのみ行ひ、二葉に分け、一葉につき二角である。仔牛の場合でなく、十歳位の時に装蹄するのである。牛の去勢は部落内の心得ある者に頼むか巡業の「獸醫」にやつて貰ふ。

部落内に崔英元なる者居り、其の人の去勢法は「水驢」と云つて、牛の四足を縛り、之を倒し、驢刀で睪丸を切開し、其れを取り出した後、止血の爲に冷水を浴せ掛る仕方である。

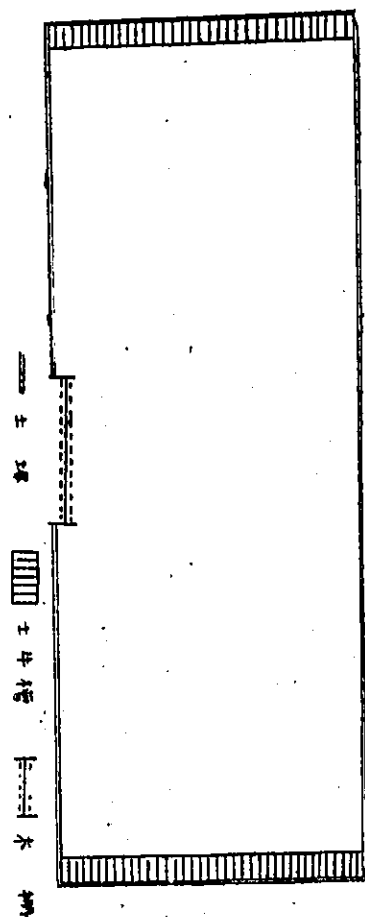
（24）高、去年二歳の牡牛一匹を獸醫に頼んで去勢して貰つた。獸醫の去勢方法は「走驢」と云ひ、足を縛らず。倒さないで二人が牛の頭をしかと抱き、獸醫が牛の生殖器を掴み睪丸を切開し、其れを取出し、紐で勁を縛り、之を切り取る方法である。獸醫の去勢料金は牛一頭に付き一元である。

調査世帯の牛、馬に對する手入れは相當行届き、春先き脱毛の時、先づ「撓子」と云ふものを一遍掻き落しそれから「刷子」でブラツシする。撓子は自製のもので「馬勺子」を改製したものである。

牛圈は文字通り圈ひにして土塀で仕切り南滿地方の如き天井を設備してある所は一軒も見當らない。

牛槽は概ね土製にして木製のものは殆どない。

牛圈の構造略圖



A

馬

名稱 牡馬

牝馬

去勢馬

馬は拉車、拉犁、脱穀、調製、乗用に供するが牛程は重要な地位を占めて居ない。

飼料の給與は粗飼料（洋草）給與月数は七ヶ月（十、十一、十二、一、二、三、四月）

其の中十二月、一月、二月の三ヶ月間粗飼料給與の外に濃厚飼料（高粱、鈴鏑麥、黑豆）を併せて與へる。粗飼料と濃厚飼料を攪拌して、所謂「拌草」と云ふものを與へない。馬に給與する飼料量は牛より多く一日二回、成馬二〇斤、仔馬は九—十斤と謂はれてゐる。

（24）高は去年濃厚飼料給與期間中、鈴鏑麥一石、高粱一石を購入して給與した。

五、六、七、八、九月の五ヶ月間は放牧す。（24）高は崔鳳鳴に預託放牧（代放）し、五頭で二回支拂つた。

去勢は概ね「獸醫」を頼み、春頃、四歳の時に行ふ。四足を縛り、之を倒し、紐で睪丸を縛り、睪丸を切開「挟子」で睪丸の根の方を挟

み、罌丸を切り取るのである。(24)高は去年、馬一頭去勢し、料金を一圓六角支拂つたと云ふ。

装蹄 掛掌 〇・三〇元

串釘 〇・一五元 (24) 一回吊釘して 〇・三〇元支拂つた江省南大街鐵匠爐

吊橋に馬を釣り、縛つて装蹄する

馬の繁殖(24)は崔の馬群と一緒に放牧せしめ自然交尾せしむ。

B、豚

名稱

牡—芒猪

牝—母猪

去勢—克狼

豚の飼料は「包米糠」「糜糠」「穀糠」「高粱糠」等糠に「缸水」を攪拌したものを一日二回給與する。一日豚一頭當り糠五斤給與するを要す。(糠一斗—五斤)

肥豚飼養の場合は普通中秋節から始め、年末の時屠殺し、之を「喂年猪」と云ふ。濃厚飼料を與へ、高粱、黑豆等である。(24)此の四ヶ月間「年猪」一匹飼養し、高粱四斗大豆二斗を給與した。飼養當初一〇〇斤のものは屠殺の時は二〇〇斤の肉を得られる。

豚も放牧し、三月十五日頃より九月十日頃(老秋)まで六ヶ月間放牧し得られる。青草を食ふと同時に糠を食ひ、(24)十匹の猪に日に三斗の糠を給與した。

放猪 は高金生、高保慶と三家合せて一人の「猪官兒」を雇ひし一年二・〇〇元(金生二・〇〇元保慶四・〇〇元を持ち(24)高は六・〇〇元出した)。

當屯崔鳳鳴の家に芒猪一匹を有し、交尾期に成ると「母猪」は發情し、芒猪をして交尾する。其の「芒猪」は全屯民に重寶がられ、畑を荒しても決して之を鞭打つことがない。獐狂なもので狼四五匹寄つてもびくともしないそうだ。

「老母猪」は春秋二回仔豚を出産し、一回六—七匹である。

豚の去勢は牝にも行はれ「紫花陽(卵巢)」を取り出すのである。概ね村民自身之を行ひ、牡の場合は何も手當をせず、牝の場合は「麥楷灰」少量を揉んでやる丈のことである。

C 鶏

名稱

牡—公雞

牝—母雞

鶏の飼養管理、概ね婦人が擔當す。

飼料は成熟しなかつた小麥「糜糠」を給與し、鶏一匹一年一斗分を要し、一日一回のみである。

鶏の孵化は春先三月頃に行ひ、床の上に草を敷き、其の上に小母鶏の場合は種卵二十個、老母鶏の場合は種卵二十五個置くのである。期間は二十五日間を要し、孵出雛數は老母鶏の場合十八匹位、小母鶏の場合十五匹位であつて成育雛數は前者は十匹、後者は八匹位である。

種雛は皆自分で孵出し、雛を買ふことは減多にない。質して見れば、雛販賣者の雛は所謂「炕鶏」と云ふもので雛體が大なれども、成育率が少いからである。「炕鶏」の方法は炕頭に草を敷き種卵三—五〇〇個置き其の上に蒲團二枚を被せて、日に二回卵を反すのである。

D 狗

大抵の家に皆狗を飼養してある。當屯は縣城に近いから往々チ、ハルから昂々溪まで旅盜人が出ることがあるを以て不可缺のものとしてゐる。

飼料は糜糠を碾子で粉にし水に混ぜてやる。小米に糠を混ぜて蒸してやることもある。(24)は狗五匹飼養し去年二斗の小米に八斗の糠をやつたと云ふ。

(2) 家畜の飼養管理費

(24) 高瑞慶

(牛) 成年八 仔牛二

粗飼料費
洋草一七・八六〇斤
濃厚飼料費
黑豆一二石 三二・〇〇元(單價一六・〇〇元)
去勢費
一・〇〇元
牛官勞賃支出
一六・八〇元(江洋二四・〇〇元)
梁姓にやつた酒錢
〇・二〇元
(馬)
粗飼料費 不明
濃厚飼料費
鈴鑄麥 一石 一二・〇〇元
高粱 一石 一八・〇〇元
去勢費
一頭 一・六〇
預托放牧費 二・〇〇
(3) 種 牡 畜
牛 牛なし
馬 崔玉財の馬群に駒馬一匹あるのみ
驢 なし
豚 崔玉財の家役(猪)一頭
(4) 仔畜の處分(崔玉財に對する訊問調査)
牛は三歳で役用向が判明せらる。足が歪んでゐて頭が低下してゐるものは肉用として賣却す。繁殖用牝牛は體軀がすらりとしてゐて肚が大きく乳房の垂下したものを選ぶ。耕作用のものは見立が立派で元氣なものを以てする。
(5) 種畜の價格

牛	上 三〇元	中 二五元	下 二〇元
馬	四〇元	三〇元	二五元
驢	一〇元		

3、牧 野

(1) 牧野面積 一〇九・〇九七响
(2) 所有使用關係
民國三年清丈の時拂下げたもの。屯長名義 所有關係一屯民共有。
使用關係屯民共同使用、牲畜を有しないものには草刈を許してゐる。

(3) 納 税

一〇九・〇九七响に對し、四六・九一元納税す。税率一响につき〇・四三元牲畜を有するものみに對し徵税す。一頭につき〇・二〇元去年は
大同元年、大同二年、康徳元年、三年度分のものを纏めて納めた。

大同元年	二八・三七元	率 〇・二六
大同二年	四六・九一元	〇・四三
康徳元年	四六・九一元	〇・四三
計	一二二・一九元	

4、獸疫の流行に依つて大なる災害を受けた例

光緒三十年頃獸疫(牛)が流行したことがある。農民は其の病名を知るものが居らない。畜病態として牛が糞を垂し軟便を排洩し、飼料を食はず二日間で死亡すると。殆んど屯全部の牛が死亡したと云ふ。
民國七年頃猪疫が流行したことがある。病名を知るものがなく、飼料を食はず水許り飲み、半ヶ月で死亡すると。爾來度々流行するやうになつた。
同じく民國七年頃鶏の鶏冠が白くなつて即死するとのことがあつたが病名不知である。

林業（龍江農事試驗場長谷部氏の調査に依る）

五六〇

1、造林地

本屯發生以來皆て造林の計畫せられたることなりしが、平齊線の鐵路愛護村となるに及び、康德元年四月鐵路總局が柳市三〇本を無料にて配付したるに付、此れを廢耕地を有する七戸の農家に二一六本宛分配栽植せしめた。其の内三分の一は枯死し、現存せるもの三分の二である。

2、自然林

當屯には一個所の森林地もなく屯民先祖が當地に移住した際には一帯に大草生地たりしものやうだ。現在當屯に生育せる自然樹は僅かに榆の一種類あるのみにして其の數約五〇本である。此等少數の榆は屯内の風景を増す爲に植ゑられ、一般に伐木利用されることはなく、稀に伐採して薪炭の用に供されることがあるも極めて少量にして經濟上注目するに足らず。

3、林野産物

前記の如く當屯には林木極めて稀にして薪炭の採收製造は論するに足らず。菌草の生育は全然なし。一般野草は所有主先づ刈取り其後を所有地なきものが無料にて刈取り秋から春へかけて原野生の野草は始めて燃料として採集され盡す。當屯内の原野は約一二〇响にして年内一戸當刈取草量約一五〇車（一車重量約六〇〇斤）此等はチ、ハルに運搬し販賣せらる。其の價格一圓五—六角である。

4、農業以外の生業

商工業全然なし。生活必需品は齊々哈爾より。

小作慣行

本屯に純然たる小作人王芝臣一戸あるのみ。此の外、夥種と稱する共同經營形態を有す。王芝臣に就いて調べたもの地主は鄭榮福と云ひ、龍江に住す。

小作地熟地十响六畝、内廢耕地四・二响、王は去年移住し來り。

1、小作人地主の名稱

地主—地東

小作人—地戸

2、小作契約

(1) 名稱 租契

(2) 作成枚數及其保有 二枚を作成し、東側各一枚を所持す。

(3) 期限 租契には一ケ年と記入、然し來て見れば地味悪かりしかば地主の諒解を得更に一年間即ち今年迄延期せりと。

(4) 押租 なし。

(5) 保證人 中見人、中保人あり。同一人にして龍江に在り。

3、小作期限満了に際しての處置

今年末には更に地主と協議の上新たなる租契を締結する。

4、小作契約の解除、停止

契約期間内解除、停止することを得ず。又契約期間内に土地を買賣せず。

5、右に伴ふ小作人の土地改良、開墾、家屋増築修繕等に關する事項。

6、小作料

(1) 名稱 租子

(2) 種類 金納

(3) 金額 年、國幣八十圓（家賃を含む家屋及び宅地も地主有なり。菜園なし）豫約なり。

(4) 納入時期 收穫後

(5) 納入方法

7、小作料滞納に對する處置

納品不足の時は地戸を代へる。

8、小作人の地稅負擔

大租、响捐、廟錢、學校、花銷等凡ゆる土地に關する租税公課は地主の負擔なり。地戸は何も負擔せず。

9、土地の修理は地戸負擔

王芝臣、田文祥、沈東禮

夥種（分種）

本屯に田文祥なるものあり。自己所有地四响半之を自作す、外に公共牧養地四响地を借り入れ、内一响を屯民沈東禮なるもの耕しおれり。尙沈は田姓の一响の外に高姓の五畝、崔の五畝を耕す。（三者皆菜園）

毎年初、口頭を以て各所有主及田に對して契約を爲すのみ。租糧は各收量賣上高の半分とす。沈は去年十四圓納め高、崔に夫々四圓納め田には五圓の所一圓加へ六圓を交附せり。

高、崔、田は彼の爲に特に翻地をなし、翻地所要農具（犁丈）家畜、人工は凡て高、崔、田持ちとす。收穫販賣の時牛車を供給す。

沈と崔、高の關係を「半青」と云ひ此の土地關係を「夥種地」といふ沈を「青份的」と云ふ。

田の小作地四响は牧養地にして年初に申長と口頭を以て契約を締結する。（崔奎生に就て訊問調査）

更に崔奎生（本屯居住）は所有地一响半、宅地四畝七分、菜園一响半にして他人の土地熟地十三响を經營す。右地は崔明（屯外、崔門屯居住）と共同耕作を爲すものなり。口頭を以て約するのみ。

崔明の出資分は熟地十三响、人工二人、家畜（馬）二匹。崔奎生の出資分は種子三石、人工二人、家畜（馬）二匹なり。收穫は均分す。此の經營形態は共同經營にして彼等は「夥種」と呼ぶ。

備考

去年、實收十石四斗、分前五石二斗、借用種子三石並利（一石に付七斗）元利合せて五石一斗を返済、崔奎生の純益は一斗なり。

三、労働

滿鐵經調 田村五十彦

目次

第一節 農業労働者なる言葉の範圍	第五節 農業労働者の需給調節
第二節 部落の構成	第六節 農業労働者の就労状況
第三節 屯内労働力過不足の算定	第七節 農業労働者の経済的地位
第四節 屯内經營農家の農業労働者僱傭状況	第八節 總括

第一節 農業労働者なる言葉の範圍

農業労働者に關する問題を取扱ふ前に、先づ農業労働者なる言葉の範圍を決定して置かねばならない。

私が此處に云ふ農業労働者とは、農家に使用される使用人を意味して居るのであつて、直接農耕作業に従事するものは勿論のこと、假令直接農耕作業に従事せざる種類の使用人——例へば炊事夫、夜番、雜役夫、耕畜の世話人等の如きもの——であつても苟くも農家に僱傭され、農家の作業を助けてゐるものは全て農業労働者なる言葉の中に包含せしめた。即ち農家に僱傭され、該農家のために自己の勞力を提供し、之に對する勞働報酬を受けるものを總稱するのであつて、勞働種類の如何を問はず、又勞働報酬の形式の如何を問はない。

かゝる意味の農業労働者は、其の僱傭期間或は賃銀の決定方法の如何によつて、之を三種に大別することが出来る。即ち年工、月工、日工の三種であつて、以下之等の各々につき、極めて簡單な説明を加へて見よう。

一、年工

年工とは普通十ヶ月乃至一ヶ年間といふが如く長期に亘つて引き續き一農家に僱傭され、勞働に従事するものを謂ふのであつて、年工は其

の僱傭期間中、僱主の家に住み込むことを原則とし、従つてこれは其の性質より見て僱主の世帯に含まるべき種類のものである。年工が右の如き性質を有するものである以上、一面識もない年工を僱傭することは絶対に無く、全て親戚關係にあるものか、或は親戚、朋友の紹介によるものに限られて居る。

更に此の種の年工は労働能力による擔當作業の種類によつて左の數種に分類され呼稱されてゐる。但し之は必ずしも嚴格に之等のものが各自の擔當作業のみを専門に受け持つのではなく、各種の作業をも兼ね行つて居るのであるが、主たる擔當作業によつて分類すれば次の如くである。

打頭的……農耕作業の指導監督をなし、労働の統制者たる地位に立つ所の熟練労働者を謂ふ。

扶犁文的……犁文を操る人であつて、之は特殊の技術を有する労働者である。

趕車的……所謂御者であつて、肥料の運搬とか、收穫物の運搬に當る労働者である。

下地的……普通の農耕作業を行ふ労働者である。

雜役夫……僱主の家の雜役に當るものであるが、農繁期には農耕作業に従事することもある。

放牲口的……耕畜の飼育見張り等を爲すもの。

大師夫……炊事夫の事である。

半拉子……半人前の謂であつて、十五六歳の少年労働者を云ふ。

二、月 工

月工は各農繁期に僱傭される所謂季節傭であつて、其の僱傭期間は一定せず、短いものは一ヶ月より、長いものは八ヶ月に及ぶものすらある。従つて八ヶ月間もの長期に亘る月工はむしろ之を年工と見做す方が適當の様に思はれるが、年工と異なるところは、賃銀が一ヶ月を單位として決定されて居る點である。

月工の僱傭時期は概して二月初めより二ヶ月間位の肥料運搬、施肥、整地の時期と、六月下旬より七月にかけての小麥收穫の時期及び九月初めより二ヶ月間位の收穫物調製の時期であつて、特に肥料運搬と收穫物調製の時期とに月工の需要が大である、これは此の時期が短期間に

急激に、且つ多量の労働力を要するといふ譯ではないが、平常に比較して概して労働力を多量に必要とする時期であることによるのである。

故に年工を傭ふ迄の必要はないが、さればと云つて此の時期には平常よりも多量に労働力を需要し、しかも餘り急を要する必要もないから、賃銀率に於て日工よりも低い月工を傭傭するのであり、此處に傭傭者側より見て月工の重大なる存在意義がある。

月工も亦年工と同じく僱主の家に住み込むことを原則としてゐる關係から、一面識もない赤の他人を傭ふことは絶対にない。

三、日 工

日工は所謂日傭労働者であつて、其の賃銀は一日若干の標準で決定される。日工の需要期は概して除草、收穫の二時期であるが、耕畜を多數飼育してゐる大農家では耕畜の飼料を刈り取るために日工を傭ふこともある。(これを本屯では打洋草と云ふ) 除草及び收穫は短期間に、且つ急激に多數の労働者を必要とするから、此の時期には臨時的な日傭を多數に需要し、従つて日工は年工、月工とは又別に農業經營上無くてはならない存在である。

但し本屯の耕作々物は殆んどその大半が小麥(八四・二%―後述する―)であつて、小麥には除草を必要とせぬから、本屯内に於ける日工の需要期は殆んど凡て小麥收穫のときである。

日工の場合でも二日以上同一主人に傭傭される場合には僱主の家に住み込み、食事も亦僱主より與へられる。

日工は其の僱傭期間が極めて短期間であること、及び需要數が極めて多いことから面識あるなしには不拘之を傭傭するが、此の點は又日工が年工、月工とは別に日工としての存在を意義あらしめる點である。

以上記す所により簡單ながら農業労働者なるものの外貌を知り得た。即ち年工は僱主の世帯に屬すべき種類の労働者であることに其の特徴を持ち、月工即ち季節傭は急激に労働力を需要する譯ではないが、平常よりは多量に労働力を必要とする農繁期に傭傭されることに其の意義を有し、日工は又日工で特に急激に多量の勞力を要する時期に年工、月工とは別な特殊的存在意義を持つてゐる。

第二節 部 落 の 構 成

大道三家子屯は龍江省龍江縣城の東南約四里(日本里)の地點に位置し、四四戸の農家によつて構成されてゐるが、今その部落構成を極め

て概括的に觀察すれば左表の如くである。

番號	姓 名	農家形態	自作面積	小作面積	經營面積	家族數	勞働量	役畜
三〇	王 淳	自作	七八・七		七八・七	男 一〇 女 一四	四八	牛 一六 馬 六
二八	高 瑞	自作	六四・三		六四・三	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二七	高 秀	自作	六〇・八		六〇・八	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二六	高 余	自作	二五・六		二五・六	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二五	高 文	自作	二二・六		二二・六	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二四	高 瑞	自作	二二・六		二二・六	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二三	高 金	自作	二二・六		二二・六	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二二	高 玉	自作	一九・〇		一九・〇	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二一	高 茂	自作	一七・五		一七・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
二〇	高 丁	自作	一六・〇		一六・〇	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一九	高 勝	自作	一〇・三		一〇・三	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一八	高 雙	自作	一〇・三		一〇・三	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一七	高 鐵	自作	八・三		八・三	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一六	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一五	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一四	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一三	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一二	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一一	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
一〇	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇九	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇八	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇七	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇六	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇五	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇四	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇三	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇二	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六
〇一	高 鐵	自作	五・五		五・五	男 一〇 女 一四	三八	牛 一六 馬 六

番號	姓 名	農家形態	自作面積	小作面積	經營面積	家族數	勞働量	役畜
一四	梁 大	自作	〇・八		〇・八	男 三 女 三	一〇	牛 一 馬 一
一三	高 普	自作	〇・五		〇・五	男 一 女 一	三	牛 一 馬 一
一二	梁 雨	自作	〇・四		〇・四	男 一 女 一	六	牛 一 馬 一
一一	王 壽	自作	〇・二		〇・二	男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一〇	馬 俊	自作	〇・一		〇・一	男 一 女 一	二	牛 一 馬 一
〇九	張 官	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇八	高 盛	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇七	高 長	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇六	高 金	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇五	王 昌	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇四	王 有	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇三	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇二	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇一	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二六	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二五	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二四	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二三	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二二	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二一	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
二〇	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一九	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一八	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一七	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一六	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一五	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一四	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一三	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一二	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一一	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
一〇	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇九	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇八	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇七	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇六	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇五	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇四	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇三	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇二	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一
〇一	梁 萬	自作				男 一 女 一	〇	牛 一 馬 一

計算し、一五才未満、六〇才以上及び就學中の児童は原則的に労働年齢外と見做す。

- 2 農業經營を爲さざる世帯の役者、及び農家の役者でも直接農耕に使用しないもの(老親役者、幼者、騎乗用、運搬用等々)は之を役者數の中に含まない
- 3 一响は日本の七段乃至七段二畝に相當する。

右表によれば農家戸數は四四戸、農家人口は二八九人(内男一九三人、女一九六人)であつて、労働量の總計は九二・三人である。之を一戸當り平均してみれば、其の家族數は男四・四人、女四・五人であつて、男女の比率は略等しく、又一戸當りの労働量は平均二・一人となる。更に屯内全農家の經營面積の合計は五三・六响であつて、一戸當りの平均をとれば一一・七响となるから、一戸當り二・一人の労働量を以て一一・七响を耕作してゐるといふ事になる。

次に屯内の全農家を經營面積別に分類してみよう。

屯内の全農家四四戸中耕作面積零のものが一四戸あり、經營形態の如何を問はず又耕作面積の大小を問はず何等かの形に於て耕作するものが三〇戸あるが、今之等のものを經營面積の大小によつて分類すれば次表の如くである。

經營面積	戸數	百分率	响數	百分率
〇	一四	三一・七	〇	〇
一响未満	五	一一・四	二・〇	〇・四
一响以上	五	一一・四	一四・五	二・八
五响以上	五	一一・四	三六・一	七・〇
一〇响以上	七	一五・九	九六・六	一八・八
二〇响以上	四	九・一	八九・一	一七・四
三〇响以上	四	九・一	二七・五	五・三
五〇响以上	四	九・一	五三・六	一〇・〇
合計	四四	一〇〇・〇	五三・六	一〇〇・〇

經營面積零の農家は其の農家形態より見れば、農業労働者及び農業労働者兼雜業をなすものであつて、自己の勞力を賣る事によつて其の收入を得てゐるものである。之等の戸數は一四戸であつて、全農家の三一・七%を占めてゐる。

經營面積一响未満の農家は所謂極零細農と稱すべきものであるが、之等は經營農家中に含めるにはあまりにも、經營面積の微細なものであ

る。而も尙ほ彼等の耕作する作物の種類は殆んど全て蔬菜類であり、之等の蔬菜類は多少賣却されるものもあるが、主として自家用として消費され、又賣却されたとしても、それに依る收入は言ふに足らない少額であつて、一家の生計を営むための收入はその殆んど全部を自己の勞力を賣ることによつて得て居り、單に労働の餘暇を利用して蔬菜類を植えてゐるといふにすぎない。故に此の階級は極零細農といふことすら不適當であつて、寧ろ完全な労働者として取扱ふべき種類のものである。これに屬するものは戸數五戸であつて、一一・四%を占めてゐる。

(以下此種のもは労働者として取扱ふ)

經營面積一响以上、一〇响未満の農家も亦耕作地よりの收穫のみでは一家の生計を維持する事の困難な過小農である。之等の農家中家族數三人乃至四人程度のもの中には、辛うじて生計を維持し得るものもあるが、自己の耕地を耕作する以外に日傭其他の形で労働に従事し、生計を助けなければ生活し得られないのが普通である。

然し假令家族數が少くとも一〇响未満の經營では餘裕ある生計を営むことは絶対に不可能であつて、勞力に少しでも餘剰があれば他種の労働に従事して收入の道を計る。故に之等のものは耕作に従事こそすれ、その經濟的地位は農業労働者と何等選ぶところがない。彼等は極めて小さな變動に遭つても忽ちにして、農業労働者の地位に轉落せざるを得ない階級である。此の種農家の戸數は一〇戸であつて、二二・八%を占めてゐる。

右の如く見てくると、まがりなりにも耕作からの收入を唯一の生活の根據としてゐるものは經營面積一〇响以上の農家である。彼等は全て四頭以上の耕畜を有し、耕作農家として一家を構えてゐるものであるが、然し乍ら一〇响以上、二〇响未満の經營農家にあつては、まだ合理的に經營を行ふ所の餘裕ある農家とは云ひ難い。彼等は自家勞力を主とする小農であつて、長期に亘つて労働者を僱傭することは殆んどなく其の經濟的地位も安定せるものとは云ひ難い。之等の農家は合計七戸であつて、一五・九%を占めてゐる。

次に二〇响以上の比較的裕福な中農、及び多數の労働者を僱傭して經營を行ふ所の五〇响以上の大農の數は各々四戸づつであつて九・一%づつを占めてゐる。之等二種の農家は所謂屯内に於ける労働僱傭の階級であつて、殊に後者は經營に當つて僱傭勞力の方が自家勞力よりもむしろ大きい。

之を總括すれば經營に際し自家勞力に比し僱傭勞力を多とする者は九・一%、自家勞力以外に僱傭勞力を必要とする中農が同じく九・一%